

### 3. 会報 第 9 号 に対し お寄せ戴いた 感想 文

今井哲二先生より 2006. 9.25

坪井 孝光 様

「会報第 9 号」、本日 (9/25) 入手いたしました。ご苦労様でした。「第 9 号」発行への始動はいつになく遅くなりましたね。

9 月も半ば近く、私も「巻頭言的なこと」を何か書かなければと思い、丁度それを書き上げたころ、坪井さんから久しぶりに「第 9 号」に関してのメールを頂きました。

坪井さんも今回はなかなか「第 9 号」への取り組みに掛かれず、気の重くなる「テープからの聞き取り作業」を 9 月中旬近くに終えられた旨のメール内容でした。何時もは、発行一ヶ月前くらいには略概要が整えられていたように思います。

“テープ起こし”は本当にシンドイ作業であると思います。ご苦労様の一語に尽きます。使命感にも似たご努力に感謝するばかりです。始動は遅かったが、添削文をやり取りしながら、完成へのスピードの速さを改めて実感させられました。

会報冊子を手にし、私の重複した「特別寄稿」の一文と懇親会での「挨拶」には、いささかウンザリ、と言うのが私の第一印象です。「太極拳」関係の記事でこの“ウンザリ”が多少救われた思いです。

「編集後記」に載せられた、とろけそうな笑顔のアナスタシア・チェボタリョーフの写真により、私の拙い文章や味気なさも一掃され、「第 9 号」も素晴らしい！との読後感が残りました。

“終わりよければ、総て良し！！”とは、こうしたことが、と思いました。有難うございました。

小野沢 賢三 様

「会報第 9 号」の極めてスピーディなホームページへのアップ、ビックリすると共にそれが出来る貴兄の技能に感服しております。ご苦労様でした、そして有難うございました。

アーカイブも揃っており、忘れかけた過去の「会報」を改めて手軽に目を通すことが出来るのも、ホームページならではの勝れたメリット、と感心いたしました。お陰様で、私どもも I T 時代の利便に浴することが出来、何か優越感に浸る想いが致します。

なお、項目番号の間違い、ご指摘いただき有難うございました。何回も読み直したつもりでもこうした凡ミスが残ってしまうのですね。

ご多忙の中、誠に有難うございました。久しくお会いしておりません。何時かお目にかかる折があれば、と願っております。 今 井 哲 二

黒田裕允様より 2006. 9.25

坪井さん

今井研究室会報のご案内ありがとうございました。アカデミックな文献に触れる機会がすくない当地での毎日の生活をピリッとしまらせるに充分歯ごたえを感じております。

9 号と 8 号を読ませていただきました。科学者の皆様のご意見が満載されており、文科系の私でもある程度は理解できました。8 号に掲載されたストラスヴァリウスのことは初めて知りました。ハイフェッツの音よりもロシアのオISTRAF の音のほうが数段音色に艶があるように感じていますが、これも防虫剤の量の加減のせいかなと思ったりしています。

白黒 CRT のガラスの品質改善で温度設定を 360 度にしぼられたにもかかわらず、上司が取り上げてくれず 外部からの情報でやっと理解されることを書かれた件は素晴らしいご報告です。ソニーの社内報にご寄稿され掲載してもらいたいほど、その内容にショックを受けております。(その 5) でまた続きを掲載されるそうですが、楽しみにしています。

今、バンコクでは 9 月から 10 月にかけて外国 (オペラ、バレエ、管弦楽、ジャズ) の音楽家がきていて楽しんでます。全部はとて時間もなくなりますが、そのうち一回は Mozart の Requiem を聞きにいき、堪能しました。10 月 4 日には Puccini のオペラ Tosca をみに行きます。日本ではとても高くていけません、イタリアのオーケストラです。

ゴルフは昨日、アメリカとヨーロッパの対抗戦 Ryder cup が終わり、ヨーロッパの三連覇が達成されたのはご存知のとおりです。4日間こちらでは毎日6時間の生中継でした。無論時々みていたのですが、日本ではみられない番組です。金のからまない名誉だけの試合であり別な意味での面白さがあります。

9月版の次ぎは3月に発行が予定されているのですが、編集に携われる坪井さんの意気込みと熱気が充分伝わってきます。これから寒くなりますのでどうぞご自愛ください。

黒田 裕允 Hiromitsu Kuroda  
SVI Thailand

#### 藤野徳三郎様より 2006.9.26

坪井様

日本エレクトロニクスの源流、ホームページを拝見させて頂きました。研究開発から製品化への取り組みに当たり大変なご苦労があった。

小生にはとても難しくて・・・大きな流れは解りますが・・・とても とてもです。

坪井さんも編集の責任者として、色々と大変ですね。とても参考になりました。情報をありがとうございました。（藤野さんは厚木でのゴルフ仲間です）

#### 高井謙次様より 2006.9.27

坪井様

今井先生の叙勲を機に始まった「今井研卒研究生・有志の会」も、「卒研究生の会」から数え今年で5年を迎えたとのことで、時の経つ速さを改めて感じると共に、今井先生、坪井幹事を始め、多くの方々のご協力の賜物と感謝申し上げます。毎回いろいろ工夫され、充実した内容の会報が、今回第9号と回を重ねられたことも尋常な努力では達成できるものではなく、改めて今井先生ならびに坪井編集長のご努力に感嘆しております。

数ヶ月前に梅田望夫著「ウェブ進化論」を読み、インターネットの繁栄の凄さと、これからのネット社会の動向、特にアメリカの検索会社「Google」とマイクロソフト社の間で予想される今後の軋轢について興味深く読みました。その中でも言及されていますが、今日のネット社会を実現することができた礎は、言うまでもなくメモリーを始めとするパソコン機能の飛躍的向上と価格の低廉化によるものであります。今回今井先生の書かれた記事で、数十ナノメートルという桁違いの素子の小型化に至る半導体技術、ならびに光レーザーの低ロス波長帯の開発にかかわるお話を拝読し、これら半導体素子の開発の研究者のご苦労と、その功績の偉大さを改めて思い起こしました。

今回第5周年の記念イベントとして懇親会で太極拳の模範演技が披露された由、大変興味を惹かれました。KDDで勤務していた時に、気功についての講演と若干の実演を見たことを思い出しましたが、これらはいわゆる兄弟であり、前者は武術として、後者は舞踏的要素を取り入れているもののようです。両方とも天空ならびに自己の持つ内部エネルギーを引き出すものようですが、恐らくこれらを演じることにより、いわゆる脳内物質の活性化が促されるのでしょうか。長生きする術として益々日本でも普及していくことでしょう。

何かまとまりがなく恐縮ですが、会報御礼とさせていただきます。どうもありがとうございました。

#### 鈴木威一様より 2006.10.4

坪井様

今回も素晴らしい会報をご恵送賜り感謝いたしております。内容、レイアウト、写真、バラエティーどれもが回を追う毎に良くなっている気がします。

今井先生の巻頭言は、先生のお気持ちや、感想が率直に吐露されており、大変興味深く読ませていただきました。

現在経済産業省が、進めている次世代の産業振興のためのロードマップ作りの中でも、半導体のムーアの法則や、限度のないとも思える微細化の話が出ておりました。ロードマップ作りの責任者である安永課長は、将来予測で、これ程予想がわかり易いハイテク産業は他に無いのではないかと仰ることでした。

ナノテクや、ゲノム、バイオのような今後の産業予測では、何一つこのようなルールが無く、技術積み上げでは、想定がつかないのでしょうか。我々は半導体の面白い時期に、仕事をさせてもらったのかもしれない、思いながら、巻頭言を読ませていただきました。

特別寄稿も先生の足跡に関する知識を更に深める意味で興味深かったです。

#### 懇親会；

なんと言っても珍しかったのが、太極拳の模範演技でした。中国に出張した時など、公園で沢山の人が太極拳をしているのを見たのが、唯一の生の物を見た体験で、今回のように説明付きは、全く初めてでした。先生の解説、坪井さんの描写で、あの時の実演の感じが思い出されました。貴重な経験でした。

伊藤さん、塚本さん、小野さんのスピーチはどれも興味深いもので、引き込まれて聞いておりました。文章になってみると、聞き逃した部分が鮮明になり、事務局は大変ですが、とても良いと思いました。

伊藤さんの経営者として、次の世代をどう育てるかを考え実践されている様子のお話があり、立派な活動だと感心しました。

今回は特に、塚本さんの仏教の話には、吃驚しました。塚本さんのような仕事をしている方が、そんなに深く仏教を修行されているとは思いませんでした。塚本さんの若者に対する教育者としての熱い思いは知っていましたが、今回のスピーチで又新たな塚本さんを知る事ができ、大変興味深く思いました。

又小野さんの話は技術の現役らしく、画期的なスイッチング技術の話で、技術者として次回の話がとても楽しみになる、興味深いものでした。

そして最後に欠席会員の近況情報があり、これも興味を持って読ませていただきました。

最後のページでは、坪井さんが美人と握手している様子を、うらやましく想像しながら、楽しい会報を読み終わりました。会報担当のご努力に感謝いたします。

Takeichi Suzuki, CEO, Executive Consulting Co. Ltd. Tokyo, 153-0052, Japan

#### 塚本一義様より 2006.10.8

坪井孝光 様

会報9号ありがとうございます。

今井先生の特別寄稿では、研究室の年次報告書の表紙まで載せて頂き恐縮しています。懇親会は毎回途中退席し24時過ぎに高松着ではどこか消化不良の気分でしたが、今回初めて懇親会終了まで出席でき楽しい1時間を過ごさせて頂きました。

9号の感想を皆さまとは少し異なる視点で述べます。私は、著作物入手すると「まえがき」と「あとがき」を結構丁寧に最初に読みます。著者の意図や著作に対する思いが簡潔に述べられ読者に伝わるからです。9号の編集後記は、オルゴールとコンサートサイン会のほのぼのとしたエピソードが2つあり、お人柄を彷彿させ会報を引き立たせています。

アナスタシアは岡山にある音楽大学でバイオリンの非常勤講師をしておりますので、岡山や高松で時々コンサートがあり、私も彼女のサインしたCDを持っていますので余計目に止まりました。

私見ですが、あらためて感想と言われると書きにくい面があるので会員の皆さまには、気軽な感想と同時に近況やちょっとしたエピソードを伝えて頂ければ、「書き易く」「読みやすい」会報になると思います。

塚本一義



伊豆 達磨山より望む「富士山」('07.3.6)



暖冬の今年、散り残った一本の「河津桜」

#### 4. 鈴木威一氏による講演会報告

今井先生が鈴木さんの主宰する「一期一会」の集まりにはじめて参加された。タイで活躍しているファッション界の女性からのお話に変感銘を受けたので、この会でもその要点を鈴木さんから是非お話いただきたい、と今井先生からの要望があり、今回の講演会報告が実現いたしました。

今井先生からご要望を受け軽々しく引き受けてしまったのですが、今、後悔しております。と言うのは彼女のお話をということですが、本人でもないし、私が女性でもない上、ファッションの話も何も分るわけでもないし、困ったなと思ったわけです。仕方がないので、講演で彼女が使った写真の一部をちょっとお見せして、なぜそんな話が、一期一会でする事に成ったのか、何故皆さんがそれほど感動したのか、感動とは何だろうかと、改めて思ったんです。

感動とは、どうも期待していた以上のものに出会うときに感じることではないかと思われま。例えば、すごいものを観ても、其れが期待通りだと「ああそうか」で終わりなんですね。期待よりちょっと上に行かないと、5%でも3%でもいいんです。したがって前宣伝が過ぎていいけないのです。そんなことが解ってきました。

今回の講演もアンケート調査をしているので後ほどお見せしますが、この話には兎に角みなさんが感動されているんですね。話は普通の話なのですが、今井先生も今回この会に初めてきていただいたわけですが、出席された方々の多くはファッションの話なので、すぐに飽きてしまうのではないかと実は心配しました。タイ人の女性ファッションデザイナーがする話は多分こうだろう、とあるイメージをもって参加された方にとってはそれが想像以上に面白かった、ということであろうかと思いました。私なりに理解したのはそんなことで、違う世界を覗いたという意味では私にとっても、大変面白く有意義なものでした。

( この人は少しも無理をしていない、このことが今回のお話の大きな特徴と思われま。日本の企業などでは無理をして、法律を犯さなければなんでもあり、という調子で金儲けをしているのは対比的に、このタイ人女性にはそういうところが微塵も無いですね。自然な態度が滲み出ている、そういう印象が強く感じられますね。 今井先生談 )

彼女は綺麗な英語で話してくれました。元々服を作るのは好きではあったのですが、大きなきっかけは子供が出来たときに、子供に着せるような気に入った丁度良い服が手に入らなかったのだそうです。そこで自分で作ったところ、周りの人から可愛いので作って欲しいと言われ、それでだんだん他の人の為にも作り出したのがそもそもの仕事の始まりなんです。

本人自身がファッションデザイナーを今もやっていますが、女性用のドレス専門です。最初は非常にシンプルなファッションデザインでスタートしました。(写真1)

その後色んなことがあって、やっとドレスを量産して商売を始め、自分の店を持てるところまで来たところ、タイでは丁度その時期、バブルが崩壊し、パーツの価値が半分ぐらいに安くなり、大部分のものを輸入していたため、大変なショックを受けたそうです。

バブル崩壊の危機をどう乗り越えたか、との苦労話もありました。その後非常に仕事がうまくゆき、自分の娘の名前からとった“SENEDA”というブランドネームで、20代の若い人向けのファッションをデザインし販売するようになったようです。今は世界中、特にパリを中心にロンドン、ミラノ、ニューヨーク、ロサンゼルス、オーストラリアなど世界13カ国でお店を持ち、欧米のトップブランドとほぼ同じところにお店が並ぶというレベルまでになりました。情報の



写真1



写真2



写真3

本拠地をオーストラリアに置いて、英語で世界中に情報発信している。なんとも不思議なタイ女性なんです。

最近のファッションのいくつかをお見せします(写真2~4)。これは皆各々アジアの雰囲気デザインはどこかに必ず取り入れているんだそうです。例えばタイの田舎で今でも作っているシルクの織物とか、インドの田舎で昔からの伝統で残っている織り方とか、そういうものを必ずどこかに入れてデザインしています。

欧米のファッション界ではアジアの流れというもの非常に新鮮なものであるらしいですね。そういうものが大きく受け入れられた一つの理由ではないかということです。出来上がったものを見るとたしかにタイの昔にあったデザインが生かされているように思われます。

余談ですが、タイの人が冬物を作るというのは一番難しいそうです。なぜならタイには冬がありませんから。

絹でのデザインが多いですね。日本では伊勢丹に一番広く自分のコーナーを持っているそうです。表参道、代官山、青山に SENEDA 製品が並んでいるそうです。フィガロなどの世界的ファッション雑誌にも毎号のように掲載されているほどのトップデザイナーです。

一期一会の講演会終了直後に行うアンケート設問、例えば「**今回は面白かったか**」に対し、参加者からは次のようなコメントがありました。

- ・人間性が最初から現れていてよかった。SENEIDA から元気なタイが見えて良かった。
  - ・女性が世界的な企業を育てた貴重な話は大変参考になった。
  - ・「女性は女性らしく」という言葉が印象的でした。
  - ・すごいパワーが感じられて良かった。
  - ・品格、自分らしさが感じられるお話で、とてもよかった。
  - ・素晴らしい人柄、業績に感動いたしました。
  - ・タイ経済の発展が人材までも育てているような気がしました。戦後日本の成長期にも同じような現象があったようです。
  - ・タイに於けるファッションビジネスという珍しいテーマで面白かった。ファッションには疎いですが人生の話として面白い話が聞けました。
  - ・今回は女性ということ、また通常とは違った分野ということで非常に興味深かった。(今まで7回開催して、今回ははじめての女性の講師でした)
  - ・今までの中で、今回の話が一番感動いたしました。
  - ・チャニタさんの素晴らしいスピーチを聞く得難い機会を与您いただきありがとうございました。
  - ・ビジネスに成功した今も「現在に感謝しながら謙虚に生きたい」と結んだ言葉に感銘いたしました。
- 等々、といった非常に評価の高い感想でした。



写真4

彼女の中に、芯の強い日本の明治時代の女性を見るよう、と言ったらお分かり戴けるでしょうか。日本のマスコミではNHKが衛星放送で、アジアン“Who's who”(アジアを代表する有名人)として数年前に彼女のドキュメンタリーを取り上げたことがあったようです。



最後に彼女の家族の写真を示しておきます(写真左)。

私には旅費を負担する余裕が無いので、チャニタさんに「自費で来てもらえますか」とお願いしたところ、何と家族4人でやって来てくれました。44歳、化粧は全くしていないし、美容院にも行かず自分で髪の手入れもやるようなんですが、日本人にはないタイプの、しかも美しい人です。折角日本に来たにもかかわらず遊びには行かず、代官山や青山の自分の品物を置いている店を家族全員で見て廻っていました。自分の仕事に対する姿勢を家族に見せているように感じられました。全てが自然体なのです。

代官山や、青山では、彼女がデザインしたものは全て売り切れになっていたそうで、「他に何かないか」と店員に聞いたところ、幾つか持ってはきたものの、それは店員自身が自分で買って使っているものだったと言います。一着何万円もするブランドものなので、可成のステイタスがある人が買う商品であり、タイでは店員などはとても買えない

値段なんです。ですから日本では店員がどうしてそんなに高いものを買えるのかと訝しがって居りました。私が、「店員もファッションの専門家なので、店員が買うということは品物が可愛く、高い評価が確かである証拠と言える訳でしょう」と言ったら喜んでいました。

小さいお店は殆ど売り切れだったそうですが、最後の日に訪問した伊勢丹にはしっかりと品物が置いてあったようです。伊勢丹での評判も大変良かったそうでした。

私が沖電気の時代に、タイに「沖タイランド」という法人を作り、その代表取締役をやりましたが、英語のできるタイ語の通訳をと、そのとき雇ったのが学校を出て間もない彼女でした。南部の国立大学の理学部化学科を卒業し、バンコクに出てきて間もなくの頃、土地会社の社長の紹介で採用しました。タイの工場を作るときに、政府との交渉、従業員の採用、資材の調達などを一年間、彼女を連れて何処へでも出かけて行きました。

その仕事が終わって、直ぐに彼女は結婚し、一年位で子供さんが出来、その時作った洋服が評判になり、だんだん膨らんで今のファッションデザイナーになったという事なのです。その間わずか10年か15年なんです。素晴らしい人柄の方なのですが、僅かな期間で世界的なブランドになったのが不思議なくらいです。すごくやり手の人がそうなったというのならまだしも、普通の大人しい物静かな人が何故だろう・・・。きれいな英語を話し、けして誇張したりするような所は有りませんでした。成功した今でも毎日を喜んで生活をしているし、決して無理をしていないのが快く不思議なところでした。

私のやっている一期一会でも色々立派な方に講演をお願いしてきましたが、今回は何か特別な気がしました。聴衆が講演の終わりには、皆彼女のファンに成ったようでした。いままでは男性の講師であったのが、今回は女性で有った事と、海外から態々来ていただいたことも又特別なことでありました。

\*\*\*\*\*

このスピーチを坪井幹事に文章化していただいて、自分でやったスピーチの結論を言っていなかった事に気がつきました。そこでご了解を頂き、追加の文章を少し書かせていただきます。

チャニタさんの講演が、何故皆さんにこれ程の感動を与えたのかの結論です。彼女は今タイ政府の依頼で国を活性化させ、若者が健全に楽しめる街づくり Project の民間委員をやっています。又彼女の会社は昨年度のタイ国代表的優秀国際企業としてタイ経団連表彰を受けています。そんな国を代表する超多忙なVIPでありながら、実に謙虚であり、また毎日自分の睡眠時間を削ってでも、2人の子供の為の夕食は必ず作り、夕食時に子供の話を聞く時間を最も大切な事と位置づけており、母、妻、そして最後がビジネス、と言う重要度の順番で事を処しているそうです。これが、皆を感動させた原点ではないかと理解しました。

家族を大切に、何事も手抜きせず、お金の為でなく、良い物作りに真摯に向かっている生き方に、今の日本人が忘れてしまった何かを多くの方が感じ、感動、感激したのではないかと思います。

彼女のような友人が居る事を、私も誇りにしたい様なすばらしい講演でした。

\*\*\*\*\*

## 5. 第五回懇親会スピーチ（後半）

### 1) 橋本 潔 様

今65歳になって思うのですが、父が亡くなったのが67歳でした。その父もある時まではぴんぴんしていたのが、突然膀胱ガンと分かり私が台湾に行っているときでしたが、あと3ヶ月と言われた。酒も飲まなかったので原因らしいものは見当たらなかったのに。その年齢になってきたので、私ももうぼちぼちかなと、可能性もあるので身にしみている所です。

父親が国鉄の技術屋だったので、新幹線を通すことをして、時々見に行っていた。父が亡くなる8年位前から国鉄に勤めながら楽器を作りはじめ、一年に一丁ずつ、ヴァイオリンを3丁と、ピオラ1丁、チェロ1丁を作った（設計図、楽器本体は父が作り、治具の一部は私がつくった）。当時チェロは高かったので喜んで作った。外の枠とか型枠を作って、丸木船と同じように水をつけながら曲げるんです。作ったチェロを今日持ってこようと思ったが、土砂降りになるとの予報があったので止めました。次回持ってきますよ。

（今井先生からは、会員には音楽に関心の深い方が多いので、一度懇親会で演奏する機会を作って欲しいとの要望がある）

父がエンジニアだったので私も人生迷わずエンジニアの道に進んだ。生きるウエイトと言いますか、特性要因図を描いてパレート図を描けばはつきり分るといふものです。当時はアメリカのものが良くて、日本のものが粗悪だったので、それを越えるということが目標だった。

ウエイトの上位と言いますか、イスラエルーパレスチナ問題、今、誰がどうやって解決するのか、その案が全然ない。案が出ては消え、出ては消えでしょう。北朝鮮も同じ問題です。どこで「ドンパチ」やっているかはテレビを通して分るので、テレビを作れば世の中が平和になるのかと信じて、テレビの部品メーカーで貢献したつもりでした。テレビの次がインターネットで、このパソコンの部品にも貢献した。インターネット網が普及すれば戦争なんてやっつけられないのでは、と思った。そして私も社会に貢献したな、という価値観を持って仕事をしていました。そんなことでこのインターネットに最初に飛びついたのですが、使い方次第によっては、これは最悪なツールにもなりますよね。

尤も、「宇宙観」で検索すれば私のが一番初めに出てきます。ウエイトのかけ方を、もっと芸術の分野においた方が良かったのかな、という思いが今、すごくしています。チェロを今でもやっていますが、バッハとやると会話が出来ようになってきた、と感じています。言い過ぎかも知れませんが。

人間にとって良い治工具はないかな？。世界共通の教科書というのはいないですよ。価値観が全部違う。そう言うときに、既に3万部発行している「宇宙観」で表しているのは460mが46億年前としていて、1mmが一万年で、0.01mmが100年です。今井先生にはこの「宇宙観」が高く評価されたんですが世の中ではあまり評価されないんです。この「宇宙観」が世界の「執行部」、人間に取っての良い「治工具」だと思っているのですが。今のこの瞬間も一期一会で0.000何mmであると、そう思うと非常に楽しいんですがね。こういう話をやっていかないと、今は、事件はあるは何はあるはで、早くそう言うところに持っていかないと、もう地球は終わりにになってしまうのでは？と感じているのです。ウエイトをそこにかけているのですが、結構うけないんですよ、先生。(18~19頁に「宇宙観」図を掲載)

## 2) 坪井孝光

会報第8号に掲載したように、ナジバリー博士の「ストラディバリウスー響きあう奇跡と幻」によると1700年代に、木材の防虫剤として使用されていた「ボラックスーホウ砂」がバイオリンを構成している木材の樹脂と反応して強固になり、300年の月日を経て素晴らしい音色に変身していることが証明されました。

ホウ砂の水溶液は目の消毒用として1%以下の濃度を指定しています。そこで濃度を倍の2%とし、駒と魂柱を茹でて乾燥させたところ木が硬くなり、紙やすりで加工するのが大変になり、木目の樹脂が硬化したことを確認できた。33年前に手に入れた量産品のもので、6年前に購入した自然乾燥で製作された高級品(?)のバイオリンが手元にある。これを何とかしてストラディバリウスに近づきたい。ナジバリー博士はバイオリン製作前の木材をボラックスで茹で、樹脂と反応させた。しかし出来上がっているバイオリンについて、その樹脂にボラックスを反応させるにはどうしたらいいかは何も言及していません。バラバラにして茹でるにはその後の組み立ての技術がなければ出来ないし、ニスが塗ってある外面にはボラックスを染み込ませることはできない。唯一内面部のみ、木の素肌が露出しているところだと分る。内部に注目した。

今までに4丁のバイオリンを買った。最初は高校生の時に買った安もので、音を良くしようとfホールを削り過ぎてゴミ箱行きとなり、学生時代に買ったのも安物で、夏の暑く湿度の高い時期に押入れに入れっ放しにしていたところニカワが剥がれてしまい、市販の接着剤で付けたらそれがずれたまま固まり、これまたお払い箱となった苦い経験がある。湿気は鬼門であることは十分に分っていたが、それでも興味には勝てなかった。

反応を速めるには液温は高いほうがいい。乾燥も早いはず。2%液を60~70に加熱し、熱湯をfホールから流し込んだ。ニカワが融けないうちに熱湯を排水し、ドライヤーで一時間ほど乾燥させた。更に一週間天井にぶらさげ乾燥させ、弦を装着して弾いたところ特に問題はなく、音はやや良くなったように感じた。

最初は安バイオリンをやったが、高級バイオリンも同様に処理し、音色が変わったことを確認した。それ以来我が家の天井には2丁のバイオリンが天井に吊るしてあり、時々音色を確認している。吊るしてある紐が緩んで落下し、床に叩き付けられたハブニングもあったが、バイオリンにキズ一つ付くことなく、その堅牢さにも感心した。

ストラディバリウスが300年を要していることを考えると、ボラックスが完全に反応を完了するまでには、このバイオリンもその10分の1の30年は必要かと思われ、その楽しみは孫の時代に委ねられる。